

# 安全人報誌

## 全国安全週間

全国安全週間は、昭和三年に初めて実施されて以来、「人命尊重」という

崇高な基本理念の下、「産業界における自主的な労働災害防止活動を推進するとともに、広く一般の安全意識の高揚と安全活動の定着を図ること」を目的に続けられていることにより、労働

災害は長期的には減少してきているが今なお千人を超える尊い命が失われており、労災保険新規受給者数は年間約

五十四万人を超えています。県内の労働災害発生状況では、死亡者が前年より

一七人減少、四日以上の死傷病災害者は三〇六人減少となっておりますが、建設業の死傷病災害者数は全体の一八・

五%と高い比率を占めております。これから、建設業を取り巻く経済環境は、不況による民間工事の減少、

公共工事の見直し等により、極めて厳しい状況にあります。いかなる状況にありましても労働災害は絶対にあつてはならないものであり、建設産業が

安衛委 No103  
平成22年6月14日  
安全衛生推進委員会



我が国の基幹産業として健全に

発展を続け、より豊かな経済・社会の実現に貢献していくために、労働災害防止は必要不可欠なため、なお一層の安全対策を図って労働災害防止に努めて頂きたい。

### 熱中症に注意

熱中症とは、高温・高湿・高熱の場

所で長い時間過ごし、さらに作業や運動が加わると、皮下血管の拡張や発汗が促進し、機能維持を図ろうとします

が、限度を超すと体内の塩分喪失の症状だけでなく、時に生命の危険を伴う障害を招きます。発生時期は五月〜九月ですが、特に八月が圧倒的に多いです



### 安全管理活動事例発表

全国安全週間にむけて、郡山労働基準協会より依頼を受け、建設業における安全管理活動の事例発表を、六月七日(月)郡山ユラックス熱海で行って

きました。聴衆二〇〇人を超える会場で、武田品質安全管理部長、会田総務部長、石井総務係長の三人が、それぞれの役割を分担し、与えられた時間を有効に活用し、郡山、田村、本宮管内

の企業に、皆さんが取り組んでいる安全管理活動のプレゼンテーションを行いました。資料を提供して頂いた現場担当者、安全管理に取り組んでい

る現場担当者、社員の皆様に御礼を申し上げます。

松野郡山労働基準監督署長、空閑第二課長より

発表後、労働省の言葉をか

けて頂きまし



### 各現場での安全対策又はヒヤリ体験談

今回は、緊急地方道整備工事を担当しました大国土木部長です。

交差点部の施工において、作業員はじめ通行車両、第三者の事故も無く完了でき、皆さんの協力に感謝致します

作業エリアを交差点中央より四分割として行い、路盤、安定処理、基層、表層とそれぞれ四回毎の施工を行いました。作業は、段差(三五、二〇、一〇

5cm)をAS合材にて擦り付け、バリケード、セフティコーンによる通行区分作業エリアの切替、工事車、人員

重機の移動出入り、ダンブの誘導の繰り返しで有り、通行者の間違い進入や戸迷い、作業員のうっかり横断など、

危ない場面もありました。左右の指差呼称の確認、整理整頓、歩行者優先や誘導方法、バリケード、セフティコーンの配置、

誘導標識の夜間の照明など基本に立ち返った安全意識

を持つて計画と実施できるようにしたい



た。